

コラム 地名と地学

桶狭間

永禄三年(1560)、尾張の織田信長が兵二千でもって、上洛途中の今川義元率いる駿遠三の兵四万を電撃的な奇襲作戦で壊滅させたのが、世に言う桶狭間の戦い、それまで小大名に過ぎなかった信長が、一躍日本史にデビューしたとも言える合戦である。この桶狭間は現在の名古屋市緑区桶狭間に所在する。現地を訪れると、桶狭間古戦場伝説地と言う碑があるが、実際は田楽狭間だったと言う説も根強い。

合戦場がどちらにせよ、この辺りは名古屋市東部から知多半島へと続く丘陵地帯(知多-猿投上昇帯と言う)の一角である。知多-猿投上昇帯は、第四紀に隆起形成された若い丘陵地帯で、地質学的には東海層群と呼ばれる鮮新統の柔らかい地層からなり、標高50-60mのゆるやかな起伏が延々と続いている。兵を丘陵背後に伏せ、丘陵と丘陵の間の窪地、つまり狭間にいる兵を急襲するに絶好の地形である。

新幹線で三河安城駅から名古屋に向かうと良く分かるが、三河安城駅のある西三河平野を過ぎると知多-猿投上昇帯の丘陵地帯に入り、そこを抜けると広大な濃尾平野が展開する。信長は「うつけ者」と呼ばれた若い頃から、鷹狩などでこの辺りの地形を熟知していたはず。寡兵で持って大軍に当たるには、奇襲作戦しかないことを

編集後記

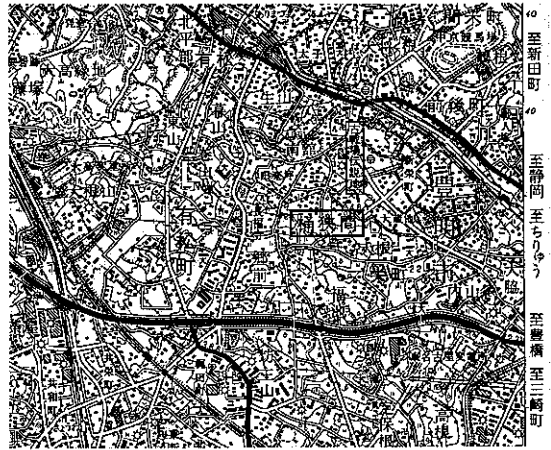
◆先月はうれしいニュースがありました。ノーベル賞を日本人科学者がダブル受賞したことです。特に化学賞は3年連続です。とかく「独創性がない」と言われる日本ですが、今回のニュースはそう言った悪評をうち破るものでした。お二人の受賞者にはおめでとうを申し上げます。

◆8月の台風13号に続き、10月に入ったとたん、台風21号が関東方面を直撃しました。戦後最大級とのことで、テレビで倒壊した高圧線鉄塔をご覧になった方も多い

地質ニュース編集委員会

- 委員長：吉田史郎
- 副委員長：谷田部信郎
- 委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569



0 5km

第1図 桶狭間周辺の地形(国土地理院発行5万分の1地形図「名古屋南部」の一部を使用)。

知っていた信長は、決戦の場として最初からこの丘陵地帯に目をつけていたのかもしれない。もしそうだとすると、今川軍が油断し、急襲直前の雷雨と言う二重の幸運に恵まれたにせよ、織田信長はやはり天才と言うしかない。(吉田史郎)

と思います。皆様のお近くはいかがでしたでしょうか。気温の方は、10月下旬になって急に寒くなり、今年の紅葉も例年より早めとか。

◆今月号は、活構造図「京都」の紹介を始め、地震関係の記事4本を前半に並べました。後半には、インドネシア白亜紀付加地質紀行の総集編、サイエンスキャンプの報告、ブライアン・メスン自伝(第7回)を掲載しました。お楽しみ下さい。(吉田史郎)

地質ニュース	第579号	2002年	11月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
	2002年11月1日	発行	
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-kooh.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2002 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。